

会議録 (1)

会議の名称	第3回 飯能市エコツアーリズム推進協議会
開催日時	平成20年11月21日(金) 開会 午後2時 閉会 午後4時
開催場所	飯能市役所 別館 会議室2
議長氏名	犬井 正
出席委員	内沼正実 市川章弘 石田安良 斉藤和重 浅野正敏 小見寺公一 浅見徳男 梶田通子 伊藤淳一 櫻井 茂 横田晴雄
欠席委員	小林 毅 福永 昭 岩渕恒次 中川 淳 島田雅子 栗原慶子 大野清治 井上淳治 井上七恵 山田直行 虎澤英雄 岡部素明 中村綱秀
説明者の職氏名	エコツアーリズム推進室 室長 安藤泰雄 主査 大野裕司 技師 春原秀樹 (財)日本生態系協会 地域計画室 室長 城戸基秀
傍聴者の数	0名
会議次第	開会 会長あいさつ 議事 (1) 冬のエコツアーについて (2) 飯能市エコツアーリズム推進全体構想(案)について (3) その他 閉会
配付資料	資料1 H20 冬のエコツアー企画・協議シート、チラシ 資料2 飯能市エコツアーリズム推進全体構想(検討用素案) 参 考 第4回エコツアーリズム大賞受賞団体一覧
事務局職員職氏名	エコツアーリズム推進室 室長 安藤泰雄 主査 大野裕司 技師 春原秀樹 (財)日本生態系協会 地域計画室 室長 城戸基秀 研究員 加藤雄也 研究員 西川史晃 研究員 望月太樹

会議録 (2)

議事の概要 (経過)・決定事項
第4回エコツーリズム大賞の「大賞」を受賞したことについて報告がされた。
平成20年 冬のエコツアー企画・協議シート、チラシについて報告がされた。
全体構想の一部に「地域経済の振興」を反映して修正することになった。
飯能名栗地区は「里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み」としてエコツーリズム推進モデル事業地区に指定されていたことから、全体構想においても「里地」、「里山」の言葉を盛り込むよう修正することになった。
エコツアーで活用の対象となる「自然観光資源」について、より市民に理解されやすい形で提示できるように、一部言葉の変更と内容の変更をするよう修正することになった。
全体構想に盛り込む「エコツーリズムの実施の方法」について、推進協議会の役割を示すことが提案され、修正することになった。

会議録 (3)

発言者	発言内容
推進室長	こんにちは。11月24日にはんとう生活祭と西川材フェアが開催されます。その準備の都合上、出席委員さんが少ないですが、どうぞよろしくをお願いします。では、第3回 飯能市エコツーリズム推進協議会を始めます。犬井会長よろしくをお願いします。
会長	各地で雪の便りが届き、飯能も気温が下がってまいりました。年末の忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日も引き続きエコツーリズム推進全体構想について協議していただきます。前回お話ししました第4回エコツーリズム大賞への応募についてですが、全国で67の応募があった中、飯能市と飯能市エコツーリズム推進協議会が最高位の大賞を受賞しました。これで全国のトップランナーと認められたわけです。これからもより良いものを作っていただきたいと思います。皆さまのご活躍、飯能市、埼玉県、環境省からのご支援、ありがとうございました。伊藤委員から一言をお願いします。
委員	おめでとうございます。犬井会長の説明の通り、大賞に選ばれました。しかも選考委員の全会一致で選ばれました。皆さまの努力の賜物です。これからも微力ながら側面から支援させていただきます。
推進室長	ありがとうございました。横田環境部長より挨拶申し上げます。
環境部長	大賞の受賞おめでとうございます。市長が出席できれば良かったのですが、別の公務のため出席できません。大賞ということで市長も大変喜んでおります。これもひとえに皆さまのご努力のおかげです。今後ともどうぞよろしくをお願いします。
推進室長	ありがとうございました。では議事に入ります。犬井会長に議長をお願いいたしまして進めていただきます。
議長	今日の議事は大きく2つです。平成20年冬のエコツアーと飯能市エコツーリズム推進全体構想(案)についてです。では、さっそく平成20年冬のエコツアーについて事務局から説明をお願いします。
推進室技師	(資料1の説明)
議長	ありがとうございました。1月、2月のツアーは4本の予定で、すべて活動市民の会が実施者とのことですが、それ以外に毎年やっていたものを今年は実施しないのですか。
推進室主査	昨年行いました、きまま工房 木楽里さんの「間伐体験&私だけのイスづくり」は今年はやれないとのこと。また(社)埼玉県建築士事務所協

会議録 (3)

発言者	発言内容
推進室主査	会いるま西支部さんの「明治～昭和の古民家探訪」は、今年は12月に実施します。他の実施者の方にも1月、2月でツアーを実施できないか伺ったのですが、皆さんお忙しいようで今回は活動市民の会の4ツアーとなりました。
議長	活動市民の会が活発で良いのですが、他のツアーがなくなるのは寂しいと思います。資料1 2009冬のエコツアー案(1,2月)の最後にある「魅力再発見!里山お散歩ツアー」のE-mailの受付時間が「24時」で切れていますので修正してください。現在の経済不況は、安くて近い、また様々なことを再発見ができるエコツアーにとって追い風になります。資料1についてはよろしいでしょうか。では次の議事2に移ります。事務局から説明をお願いします。
推進室主査	(資料2 1の説明)
議長	前回ご指摘いただいた箇所を事務局が修正しました。なにかご意見、ご質問はありますか。1ページの顔振峠の読み方が「かあふりとうげ」となっています。「かお」ではなく「かあ」ですか。
委員	現在、現地の方は「こうぶり」と言っているのではないのでしょうか。文政の時代には「顔振」ではなく「冠」で「かあぶり」と言っていたそうです。山の形から冠を想像したのかもしれませんが。
委員	人によってそれぞれで、どう呼んでも間違えではないと思います。
議長	国土地理院の地名表示はどうなっていますか。
地域計画室長	確認したものが国土地理院の資料ではないのですが「かあふり」でした。
委員	ふりがなは「かあふり」でも実際は「こうぶり」と読んでいる人が多い気がします。
委員	ふりがなをふらなくても良いかもしれません。
地域計画室長	この読み方はいろいろあるようですが、それを統一したと聞いたことがあります。それで資料を調べたところ「かあふり」でした。ふりがなが不要であれば取ります。
議長	地名はふりがなをふっておいた方が良いです。一度、国土地理院に問い合わせてください。他はいかがですか。
委員	地域経済の振興という視点が欠けていると思います。4ページの3)推進の基本的な方針にある10の推進のポイントの10番目に「宿泊滞在型の観光の充実を図る」とあり、結果的に地域経済の振興につながると思いますが、文字として入れる必要はないのでしょうか。市民の方に公表したとき、地域経済は関係ないと理解されると困ると思います。

会議録 (3)

発言者	発言内容
推進室主査	資料 2 の 29 ページ以降になりますが、この 10 の推進のポイントはエコツアーのプログラム作りのためのポイントと考えています。このポイントを押さえて行ったツアーの結果が地域経済の振興につながると考えています。
委員	結果的にそうなるだろうと思うのですが、文字にしなくていいのでしょうか。
推進室主査	エコツーリズムは「環境保全」、「観光振興」、「地域振興」、「環境教育の場としての活用」の 4 つを理念とし、それを反映させています。このうち、特に飯能の場合は、「地域振興」「環境保全」が大きいと考えています。
議長	ポイント 8「長い年月をかけて培われた伝統技術や技能を新たな時代に活かす」とありますが、「伝統技術や技能をエコツーリズムに取り入れることで、新たな時代の地域経済や地域産業に活かします」などと盛り込んではいかがですか。
委員	その方が市民の方は受け入れやすいと思います。
委員	資料 2 の 1 ページ、第 2 段落の最後に、現在の飯能は「商店街の活力低下」「伝統文化の衰退等」とあり、第 5 段落の最後に「地域の活力につなげていくことを目的としてエコツーリズムを推進」とあります。これは地域経済の活力が地域の活力につながっているということだと思いますので、地域経済の振興を 4 ページの 3) 推進の基本的な方針ではなく、根幹である 2 ページの 2) ①～③で強調した方が良いかもしれません。
議長	資料 2 の 2 ページ 4 行目の「地域が活力を維持していくために」や、先のポイント 8 の「新しい時代に活かす」が漠然としているので、今指摘のあったことを盛り込むと市民の方に分かりやすくなると思います。他にご意見等ありますか。全体構想の中から「里地里山」という言葉をなくすかどうかですが、当初飯能名栗地区は「里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み」ということでエコツーリズム推進モデル事業地区に指定されました。これに関しましてはいかがですか。
オブザーバー	今ありましたように、エコツーリズム推進モデル事業地区の指定要件に「里地里山」とあり、環境省としてはこの言葉を残してほしいと考えています。

会議録 (3)

発言者	発言内容
地域計画室長	修正にあたり「里地里山」がどのようなものか調べましたが、イメージはありますが、明確に区分される場所ではありません。他の山地、平地の農村地帯などもあり、これらの中に里地里山は含まれないかなど、区分が難しくなりますので抜きました。しかし今ご指摘がありましたので里地里山を入れるよう訂正します。
委員	里地里山の概念はいろいろありますが、ここでは概念にとらわれず修飾語として使ってもらえればよいと思います。この概念は地元の方、学者などによって異なると思いますが、山村の、牧歌的イメージがあるところに里地里山を使うと良いと思います。
議長	国の環境基本計画に里地里山の定義が出ているので参考にしてください。
地域計画室長	6 ページのポイント 7 は「里地里山や農山村の衣食住」から変更しましたが、以前の「里地里山や農山村」という言葉で飯能市全体を含んでいるということよろしいですか。イメージとしてはそのように使っていました。
議長	里地里山の定義がなにかということより、親しみやすい身近な自然をそのように呼ぶとした方が、飯能名栗地区が、里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組みとして、エコツーリズム推進モデル事業地区に指定されたことの意味も残ると思います。
地域計画室長	環境省では「里地・里山」でなく「里地里山」のように中点で区切らないで使っていますので、そのようにしようと思います。
議長	あまり難しく考えずに里地や里山を配す形にしましょうか。7 ページ (2) 1) の 2 行目「武蔵野台地」という言葉は使いません。「武蔵野」で台地は付けません。他はよろしいでしょうか。では、今指摘のあった箇所を修正してください。続けて説明をお願いします。
地域計画室長	(資料 2 2 の説明)
議長	自然観光資源についての説明でしたが、ご意見等ありますか。
委員	自然観光資源の最初に動植物が出てきますが、動植物と人間が共存できているか疑問で、市民の方の中には自然観光資源ではないと思う方が多くいると思います。

会議録 (3)

発言者	発言内容
地域計画室長	おっしゃるとおりです。イノシシやニホンジカは農林業被害を出しています。これらを入れるか迷いましたが、代表的な生物を入れています。人とのあつれきを示すために、農業被害を与えていることを記述しています。
委員	人間と動物がうまく共存していると感じませんし、農業被害に悩んでいる市民が大勢いると思います。それを自然観光資源と言うと里山の農業は不可能になるので、これらを観光資源ということはできないと思います。
議長	「自然観光資源」という書き方では、その存在だけで観光資源というイメージがあるが、使い方によってはエコツーリズムの素材になりうるということだと思います。例えば人と動物の付き合い方を考えるために使うということです。「自然観光資源」という書き方が適切かどうかの問題だと思います。
委員	これは「自然観光資源」と表記しなければいけないものなのではないでしょうか。今おっしゃったようにエコツーリズムには必要な素材であり、動物との関わり合いについて考えるツアーも必要です。これは今までの観光資源の考え方からすると、一般の市民の方には受け入れにくいかもしれませんが、エコツーリズムでは観光資源そのものが違うということを伝えられればと思います。
議長	例えば「飯能市エコツーリズムで用いることができる自然素材」などと言葉を変えるというのはいかがでしょうか。環境省でこの言葉を使うようにマニュアルで決まっているのですか。
オブザーバー	他の団体も全体構想はまだ策定段階ですので、この言葉を変えて良いのか分かりません。基本方針では「自然観光資源」を使うように記載されています。
委員	先ほどありましたように自然観光資源はエコツーリズムの対象になりうる観光資源です。様式は資料2、10ページのように決まっていますが、「区分」は例えばイノシシを食べる文化は動植物、文化のどちらにも入れられると思います。それを「特性」で説明すれば「名称」でイノシシと書いても問題ないと思います。
議長	一般の方が見たときに、イノシシやツキノワグマあるいはニホンカモシカを自然観光資源とすると誤解があるかもしれません。エコツーリズム

会議録 (3)

発言者	発言内容
議長	に使える素材ということ「利用の概況及び利用にあたって配慮すべき事項」で説明するか、「自然観光資源」という言葉を変えて環境省へ全体構想を提出し、コメントをもらうということがあると思います。環境省は絶対にこの言葉でなければいけないと言っているわけではないですね。
委員	飯能が先進事例ですので、新しい言葉を作ることもできるのではないのでしょうか。
推進室主査	「対象となる自然観光資源」では全ての資源を挙げていますので、エコツアーで使うものだけに絞っていくこともできると思います。
議長	使い方によって資源となるものは挙げておいた方がよいと思います。
委員	飯能の林はほとんどが人工林であり、これからは人と動物が共存していることと投げかける際に使う素材ということはいいいのですが、現状では自然観光資源という言葉に抵抗があります。
議長	この箇所は文言を「自然観光資源」とするか「自然観光資源になる素材」のような言葉にするかということと、「利用の概況及び利用にあたって配慮すべき事項」でも説明するかということについて次回までに考えてきてください。他にご意見などありますか。
委員	11 ページの最後「名称」で「貴重な植物群落」とあります。他は「川」「谷津」「二次林」となっているのでここだけ異質に感じます。
議長	「区分」が「動植物の生息地・生育地」となっていて「名称」が「貴重な植物群落」というのはおかしいかも知れません。
委員	貴重な植物群落がある場所と言いたいのだと思いますが、書き方がおかしいと思います。また「動植物」の中に「植物」の記載がありませんので、これでは群落だけが大切ということになってしまいます。同様に「大木」とありますが大切なのは大木だけでしょうか。
地域計画室長	今ありました「貴重な植物群落」については、これを「動植物」に入れるかどうかということだと思います。群落は植物が生育している場所を指すので「動植物の生息地・生育地」に入れていましたが、「動植物」に入れる方が分かりやすいので、そのようにします。また「動植物」の中に個々の植物を入れるかどうかですが、ここではエコツアーの主な対象としています。植物単体だとあまりに多くなるので「大木」を対象としました。

会議録 (3)

発言者	発言内容
委員	<p>ここはおそらく後に特定自然観光資源に指定する際、関係してくると思います。例えば文化財保護法で蔵を保全するとき、どこの蔵か明記するように、ただ原生林と書くのではなく、どこの原生林か明記する方法もあると思います。伐採してもかまわない人工林は大きな形で表記し、保全すべき地域のみ細かく表記するという方法もあると思います。</p>
地域計画室長	<p>やや大きな原生林・二次林は名栗にあります。他は小さいものが点在していることや8割が人工林の中、残された原生林・二次林は全て貴重だと思います。これらは分散していますので、全てに名称は付けずに、できればこうした大きな形で表記させていただきたいと思っています。特に貴重と考えられるものは「貴重な植物群落」として名称を付けて抽出しています。</p>
議長	<p>私の印象では飯能市内に立ち入り制限をかける必要がある場所はないように思います。残り時間が少ないので、今指摘のあったように細かく表記できるか検討してみてください。他にご意見等ございますか。</p>
委員	<p>18、19 ページの「産業資源」で「西川材」、「飯能焼き」、「炭焼き」とありますが、それ以外にもお酒、織物などもあるので、ぜひ付け加えてください。</p>
議長	<p>今指摘のあった点を加えてください。16 ページの「産業遺構」に「石灰」とありますが「いしばい」ではなく「せっかい」と読むのですか。青梅では「いしばい」のようですが。</p>
推進室主査	<p>飯能では「せっかい」です。</p>
議長	<p>10 ページの一番下「特性」の欄で「カジカガエルの美しい声」とありますが、他は修飾語を使っていないので、ここも同様に修飾語は使わないようにしましょう。今日は審議が長引いてしまい、時間も残り 30 分くらいです。今回は休憩をとらないでもよろしいですか。では次にエコツアーの実施の方法について説明をお願いします</p>
推進室主査	<p>(資料 2 3 (1) ~ (2) の説明)</p>
議長	<p>20 ページから 34 ページの説明でした。なにかご意見等ございますか。</p>
委員	<p>実施者として特に目新しいことはないと思いました。ただこれらの内容が全て実施者、参加者に押しつけられているように感じます。飯能市は行政としてなにかできることがあるのではないのでしょうか。</p>
推進室主査	<p>ここには行政からの視点は入っていません。実施者、参加者の方が主体になってやっていただくというものになっています。</p>

会議録 (3)

発言者	発言内容
委員	エコツーリズムと環境保全を結びつけようと努力しているのは分かりますが、細かく見ると実施者の方に押しつけているところがあります。これでは新規実施者は皆無になってしまうと思います。もう少しお互いのできるがあると思います。
議長	行政というよりも推進協議会がもっと係わる必要があると思います。特に23ページのA-5「環境管理の実施にあたっては専門家の助言を得る(実施者)」とありますが、これだけではこの専門家に依頼すればいいか、費用はどうするのかなど分からず、実施者が全てやるとなると大変です。推進協議会が専門家の紹介あるいは派遣をするなどした方が良いと思います。また26ページのE-3「救急医療品を用意する」とありますが、その他にもトイレ、避難場所の設定などを考えることや行政への働きかけなど、推進協議会からの視点もあつた方が良いと思います。これに関してマニュアルには実施者、参加者を記載するように示されているのですか。
推進室主査	そのようには記載されていません。
議長	推進協議会の役割を含め、実施者が快適にツアーをできるよう、参加者と実施者の仲立ちをするのが良いと思います。
委員	普通の旅行とエコツーリズムはなにが違うかなど、無関心な一般の方に押しつけるようでは、28ページのF-5「おもてなしの心」もおぼつかなくなります。そういったことや環境問題、エコツーリズムを誰が一般の方に示すのでしょうか
議長	実施者や参加者の方に環境や地域への理解をしていただくために推進協議会がどんな役割を果たすのか検討した方が良いでしょう。他に言葉についてですが、28ページF-5でなぜ「もてなし」だけ「お」が付くのでしょうか。
地域計画室長	「お」を取ります。
委員	先の石田さんの考えに共感します。エコツーリズムの考え方は大変良いと思います。しかし、市民がお客さんを一方的にもてなすだけで、しかも実施者の方の負担になることが多いのでは盛り上がらないと思います。それで本日はじめに「市民の方にも説明するのですか」と聞いたわけです。市民が盛り上がらないようではこの事業は難しいと思います。まず協議会、飯能市が理解し、それで市民の方に理解してもらわなければいけないと思います。

会議録 (3)

発言者	発言内容
議長	市民全体がエコツーリズムに係わっていくことが、飯能名栗エコツーリズムの大きな土台です。ここでは実施者と参加者の間で推進協議会が果たす役割を検討し、実施者、参加者に押しつけるのではなく、みんなで検討し、実施するという文章に変えるということです。時間ですので終わりにしますが、次回は資料 2 の 35 ページ以降をよく読んできてください。また今日審議した箇所も振り返っていただき、次回は全体を決めていきたいと思えます。本日のことを次回に活かしてください。では議題を終わりにします。その他に何かありますか。
推進室長	次回の推進協議会は 1 月 30 日、5 回目は 2 月 20 日に実施したいと考えています。よろしくお願いいたします。
議長	では副会長からあいさつをお願いします。
副会長	エコツーリズム大賞の受賞は、犬井会長をはじめとする委員の皆さま、地域の皆さまのご努力の賜物だと思います。推進役の皆さんには、ますますのご活躍をお願いします。本日も長時間にわたりご審議ありがとうございました。本日はこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

議事の内容・概要を記載し、その相違ないことを証明するためここに署名します。

年 月 日

議長の署名